SHOSHINだより

2012　7
387

発行:SHOSHIN本部　〒2520804 藤沢市湘南台1−14−4 Tel:0466-45-5555 Fax:0466-43-0439 Email:info@e-shoshin.com URL:www.e-shoshin.com

新高校入試制度

神奈川県教育委員会から、当初７月上旬に公表予定であった２０１３年度公立高等学校入学者選抜選考基準及び特色検査の概要について、日程を繰り上げて６月５日に公表されました。

選考基準では学習の記録（調査書）と学力検査（入試）、そして面接の比率が高校ごとに公表されました。

普通科（クリエイティブスクールをのぞく）および単位制普通科高校に該当する１１２校の配分比率は、学力検査を重視した学校（例３：５：２）が全体の３２％、調査書を重視した学校（例５：３：２）が全体の２２％、調査書と学力検査の割合を等しくした学校（例４：４：２）が全体の４６％となりました。

この結果から新しい入試制度への切り替えで様子を見た学校が多かったように思います。次年度以降はこの比率にも若干の変動がみられることでしょう。

次に特色検査ですが実施される学校は全体の１０％程度になります。特色検査が実施される学校をみてみると、これまで独自入試を行ってきた学校や学力向上進学重点校が目立ち、試験時間も多くの学校で５０～６０分間の記述式になります。

3	5	2			1	
4	4	2				
5	3	2				
			→			
			→			

例【湘南】検査時間 60 分

・説明文や提示された資料を読み取り活用し、与えられた課題や設問に対して、中学校までの学習の成果を生かして、答えや自分の考えを記述する。

・論理的思考力、洞察力、情報活用能力、表現力を評価

例にあげた湘南高校では特色検査を導入することで、調査書の割合が３割を下回り、面接の割合も２割を下回る結果となります。これまで独自入試を学力目標にしてきた受検生にとっては、この特色検査が一つの学力目標になっていくと考えられます。

最後に重点化ですが、これは調査書の評定を３教科の範囲で２倍まで、学力検査の結果を２教科の範囲で２倍まで重点化することができるものです。この重点化を第１次選考で導入する学校は全体の３０％程度になります。得意教科があれば有利にはたらくので、志望校を考える際にも見逃せない点になります。

「神奈川の公立高校入試は全国的にみても非常に易しい。」一頃こんな言葉を耳にしましたが、新しい入試制度の下、神奈川の入試は大きく変わろうとしています。第１志望の合格切符を手に入れるために、これからは調査書の評定では判断できない真の実力を身につけることが必要になります。（青山）

重点化の例【藤沢西】

第１次選考：調査書で主要５教科のうち点数の高い２教科（×2）と実技教科のうち点数の高い１教科（×2）

第２次選考：学力検査で点数の高い２教科（×２）

親と子の私立中学受験講座第Ⅱ部

７月２１日(土)午後２時５０分～６時５０分（２時１０分開場）に「親と子の私立中学受験講座第Ⅱ部」を開催します。

４月３０日（月）に行われました第Ⅰ部に引き続き、第Ⅱ部では**近隣の私立中学３２校分の入試問題の分析結果**を報告いたします。

６年中学受験コース生には授業の一環として全員参加していただき、入試へ向けての準備を進めてもらいます。なお、６年公立受検コース生も参加できます。

定期テストはどう変わるか?

これからの中学校の定期テストはどう変わるか。６月２３日（土）に行われた「高校入試相談会」で、各教科の分析結果が発表されました。

英語　従来通り、「観点別学習状況の評価」に沿っての出題でしたが、英作問題に工夫が見られました。長文読解問題も増加の傾向にありますので、基本から発展にどれだけ理解を深めていけるかが今後の大きなカギになりそうです。(明智)

数学　今回の中間テスト数学問題での注目点は、四点あります。第一に、設問数が全体的に増えたこと。第二に、漢字指定の問題が出たこと。第三に、計算問題で計算の過程を書かせたこと。第四に、全体的に説明問題が増えたことです。学力検査はこれまで以上に思考力や判断力、表現力をみる内容に変わり、これにより、定期テストでも高校入試を見据えた問題が増えていくと考えられます。(二宮)

国語　各学校の中間試験から、国語では来年度の入試で大きく変わることが予想される記述を意識した出題がいくつかありました。一口に記述と言っても、例年までの条件作文という形式から離れて内容の説明から要約、表現重視の作文など幅広い形式での記述の出題が目立ちました。文章全体を端的に捉え解答の核となる部分を中心に記述を試みる。この機会を多く持つことが近道と言えるでしょう。(吉川)

理科　県教委からの文書で、平成 **25** 年度入試より「従来より思考力･判断力・表現力等をみる」とされたことに伴って、中学の定期テスト問題にも多少の影響が出たようです。グラフを描かせるような問題こそなかったようですが、文章で答えさせる設問が各校で見られました。また、内容が高度になった教科書のコラムや脚注に書かれている内容についての設問も見られましたので、教科書を徹底的に読みこなすことが必要です。(榎原)

社会　各中学校のテスト問題を眺め、まず目を引いたのは、図表やグラフなどの資料を元に解く問題です。設問形式では、資料から読み取れることを選択肢から選ぶものが多く、次にその資料の比較考察とその理由などを記述するものです。記述問題では、従来の公立高校入試に出題された、「キーワード」を盛り込んで表現する形式が複数の学校で出題されました。昨年暮れに県が発表した出題例に沿ったものは見られませんでしたが、９月以降の定期テストではその対応も必要になるでしょう。(青山)

のびる

本紙紙面でも特集しております通り、平成二十五年度の公立高校入試の概要が発表となりました。例年七月が近づいてからの発表だった覚えがあるのですが、半月以上も予定を早めたことは、その影響の大きさを考慮してのことと好意的に受け止めています▼まず、これはすでに知らされていたことですが、従来の前期・後期の二段階の選抜が「共通選抜」に一本化され、すべての受験生に学力検査(入試)が課されることになったのは喜ばしいことです。従前の前期選抜で合格した生徒は、入試へ向けての受験勉強をしないまま高校に入学することになっていたわけですから、必然入学してからの学習に悪影響を与えていたと考えます。また、前期選抜の合否が確定してから後期選抜の入試まで、勝者と敗者がともに机を並べなくてはならないといった、精神的に好ましくない状況も解消されます。入試直前の一番大切な時期に、受験生のモチベーションがそがれてしまうようなことは、これでなくなることでしょう▼昨年末の県教委からの資料で、学力検査の変更点について各教科ごとに発表がありました。また、四月からは「教科書維新」とまでいわれた新しい教科書での学習が始まっています。こうした背景から、ＳＳＴＯＳＳＨＩＮでは在室生が通う各中学校の定期テスト問題がどのように変わったかの分析を行い、先の一高校入試相談会」に於いて発表させていただきました。一部内容は本紙紙面にてご紹介させていただいていますが、総じて難化すると思われる入試へ向けて、定期テストも出題内容はもとより、出題形式や解答方法も変わってきたといってよいでしょう。今後はその傾向が更に強くなることは想像に辛くありません。こうした定期テストへ向けた対策としては、単純に「過去問」だけを繰り返していても効果は上がらないと考えます。新しくなった教科書を熟読し、新しい出題形式に対応した問題練習を重ねていく必要があると思われます▼今回の資料で、各高校毎の資料の配分比率が発表となりました。注目の面接は最低ラインである二割とする学校がほとんどのようですが、これは決して小さな数字ではありません。内申の比率が多くの学校では三割となっていますので、内申対策にいくら力を入れても、面接で大きく失敗すれば元も子もなくなってしまうでしょう。ＳＳＴＯＳＳＨＩＮでは四月より中三生を対象に生徒面談を実施し、この六月に二回目を実施しました。今回のテーマは県の指針に基づいて、「教科活動」と「教科外活動」について話をしました。今後も二か月に一度程度のペースで、生徒との面談を重ね、本番への準備を進めていきたいと思っています▼小さな塾の強がりのように聞こえるかもしれませんが、ＳＳＴＯＳＳＨＩＮでは大手には真似のできない小回りをきかせて、これからも有意義な受験指導を行っていきたいと考えています。(榎原)